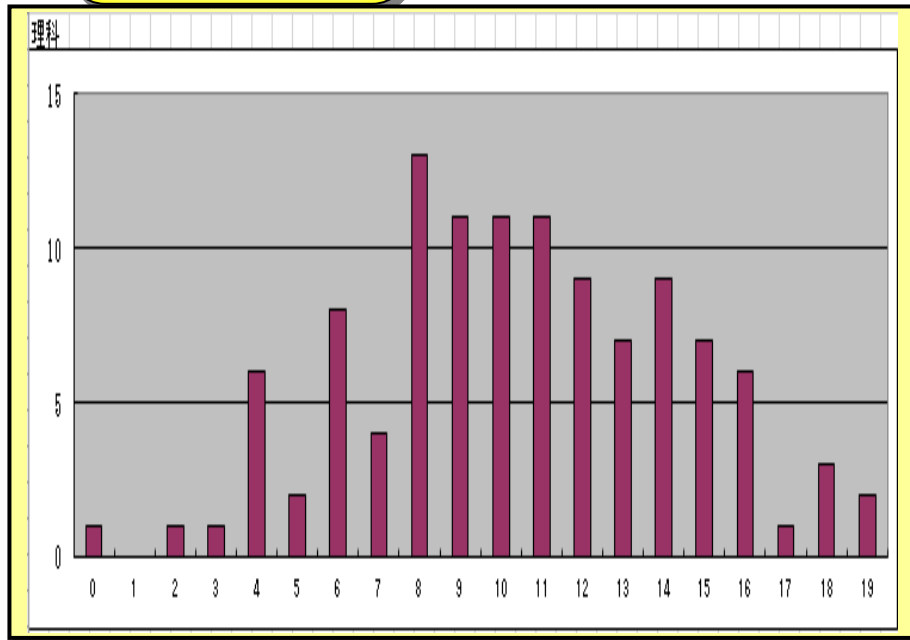


# 学力調査（5年）結果の分析・課題解決について

## 正答数分布



## 観点別正答率

A 教科の内容		
教科	学年	都
理科	55.1%	56.8%

### A 教科の内容

思考・判断・表現		技能		知識・理解	
学年	都	学年	都	学年	都
47.3%	53.0%	63.9%	67.0%	57.6%	55.0%

## 調査問題から

1-(2)	32.7%	光の性質	科学的な思考・表現
2-(2)	32.7%	太陽の動き	科学的な思考・表現
3-(3)	33.6%	物の性質	科学的な思考・表現
4-(2)	26.5%	電気の性質	自然事象についての知識・理解
4-(3)	19.5%	電気の性質	自然事象についての知識・理解
6-(1)	56.6%	磁石の性質	科学的な思考・表現
6-(2)②	53.1%	磁石の性質	科学的な思考・表現
8-(2)	52.2%	温度と水の状態	自然事象についての知識・理解
8-(3)	38.1%	観察・実験の約束	観察・実験の技能

### ○誤答分析

理科の知識が全体的に不十分のため、問題に対応できていない。特に電気を流せる金属と磁石につく金属の混同がみられる。同じ体積でも物によって重さが変わることなど、生活（一般的価値）と結び付けて考えられていない。どの単元においても、資料（グラフ、表）を適切に読み取ることができていない。情報の整理をする力、比較する（太陽と影の因果関係など）力などが必要である。

※「全て選びましょう」という問題の正答率が低い。問題を最後まで読まずに回答している児童が多い。

### ○全体の傾向

10問以上できた児童の割合が、約48%である（東京都の正答率56.8%）

### ○上位層・下位層の割合

90%以上の正答率は約4%（昨年度約38%）  
60%未満の正答率は約61%（昨年度約14%）  
と、上位層が90%減少、下位層が490%増加している。

### ○教科の内容（前年度比）

- ▼思考・判断・表現（-5.7%）
- ▼技能（-3.1%）
- △知識・理解（-2.6%）

明らかになった課題

## 学校

### ○短期的

- ・3年の磁石の性質についての学習では電気を通すものの振り返りを必ず行う。
- ・3年の磁石の性質の学習ではおもちゃ作りを必ず取り入れる。
- ・4年3学期にはデータの読み取り方、星座早見の使い方の復習を必ず行う。
- ・5・6年生では東京ベーシックドリルを活用し、実験器具の使い方を確認する。

### ○中・長期的

- ・主体的に実験が行えるように、児童が考えた実験を行えるように理科室の実験器具の充実を図る。
- ・既習事項をもとに実験方法を考えられるような学習の流れを確立する。また、考察をできるかぎり行う。（船堀スタンダードの徹底）
- ・学習内容を活かしたものをでんに置き、児童に触れさせる機会を多くする。
- ・実験道具は定期的に各学級に貸し出し、触れる機会を多くする。
- ・単元末のおもちゃつくりを導入に提示し、児童自らが作製をしたいと思うように授業計画をたてる。
- ・基礎基本的な知識を確実に身に付けさせた後に発展的な学習に取り組むようにさせる。
- ・データを取り、そこから読み取れることを考えさせる授業を適宜行う。

## 家庭

### ○日常的な取組

- ・定期的なベーシックドリルの活用

### ○長期休業日等での取組

- ・生き物の飼育・生態調べの課題
- ・サイエンス教室の参加を促す
- ・東京都小学生科学展に応募する

解決策